

福祉サービス第三者評価結果

①第三者評価機関名

株式会社 地域計画連合

②事業者情報

名称： 戸田第2すこやか保育園	種別： 保育所
代表者氏名： 木村 実都章	定員(利用人数)： 120人 (108人)
所在地： 〒 335-0012 埼玉県戸田市中町2-9-11	TEL 048-446-9028

③評価実施期間

平成31年 7月 1日(契約日)～令和2年1月29日(評価結果確定日)

④総評

◇特に評価の高い点

○土や自然に親しむ『ぼうけんファーム』の取り組みが子どもたちの楽しい活動につながっている年間を通し、専門の講師の指導を受け「ぼうけんファーム」という取り組みを行っており、保護者の参加を呼びかけながら年間プランに沿って、子どもたちと花壇づくり、土づくりからはじめ、季節に合った苗植えや種をまき、その後も、防虫ネットを張ったり、摘花、間引きなどを行い、植物の成長を観察しながらファームへの興味関心を引き出すように進められている。収穫した野菜は保護者に写真などで伝えるとともに、給食で提供していくことや収穫した野菜を味わう合同クッキング、すいか割りなど、子ども達の楽しい活動につながるように工夫されている。さらに、採れた大豆での味噌作りや次年度に向けた土づくりまで、年間を通し、土や自然に親しみ、食育にもつながる取り組みとなっている。

○保育室等のスペースの使い方を工夫して子どもたちが主体に遊べる環境づくりを進めている子どもたちが主体的に活動ができることを基本に、大人の都合ではない環境づくりを心掛けている。その結果、0・1・2歳児ではパーティションを使い、生活と遊びのスペースを分けて、安心して遊べる空間を保障し、子ども達の手の届くところに遊具が配置されている。幼児組では、ブロックやままごとコーナーなど自ら選べるような工夫がされており、子ども達が落ち着いて楽しく遊べるように配置されている。また、コーナーに置かれている玩具も手作りのものが多く、子ども達が手に取って遊びたくなるようなアイデアがみられる。さらに、階段下には親子でゆったりできるコーナーも作られ、保育室等のスペースが年齢や状況に応じて活用しやすいように工夫がなされ安心できる環境となっている。手作り玩具に関しては、保護者にとっても、保育園ならではの玩具として大事にして欲しい取り組みと評価される。

○子どもたちが地域の人と交流する機会を持っており、さらに広がるように検討を行っている今年度は、園の夏祭り地域で開催される盆踊りに、子どもたちが参加しやすいようにと、近隣の高齢者の方をお願いして、地元で踊る盆踊りの曲の手ほどきをしてもらっている。子どもたちが踊り手の、手のしなやかな動きに目を見張っている様子が、降園時に掲示されるノートに記載されている。園の夏祭り時には、近隣にご案内文を配って、一緒に踊ってもらって交流を持った。また、ぼうけんファーム(園の畑)を作るにあたっては、外部講師をお願いしており、親子で畑作りに参加したり、藍染めの葉のたたき染のワークショップを開催したりしている。次年度は高齢者の施設との交流を考えており、園の特性と役割を活かして、地域の子育て中の親子とのふれあいの場の提供や相談などさらなる事業展開の広がりも期待できる。

◇特にコメントを要する点

○園の事業計画策定に際してより具体的な指標や目標とする達成状況などの検討も期待したい
法人の中長期計画を受けて、園では事業計画を取りまとめ、年度末には報告書を整理して事業の振り返りと次年度に向けた計画の検討につなげている。事業計画の策定に際しては、目標となる指標の設定や達成状況などを判断しやすい目標設定を職員全員の協議のもとで行い、自らが取り組んでいくという意識の向上、自分たちの園であるという認識をより高める方向性の進め方の協議も期待したい。

○個別研修や育成計画の策定などを検討し、職員のやる気と働きがいのさらなる向上に活かされたい希望する研修にはできるだけ参加できるよう配慮がなされており、受講後には報告書を整理し職員会議の場などで発表し共有がなされている。人材育成に関する基本的な方針などを法人として整理しその方向性を確立し、保育活動における質の向上、保育者としての資質を高める取り組みをさらに進められたい。ミドルリーダーの育成を目指した職種別や階層別の研修計画を整えるなど、専門性のさらなる醸成に向けて園内外の研修を活かし成果の共有も進められたい。職員の将来的な展望、希望や要望などを整理し、これまで学んできた知識や技能・経験、経歴なども考慮して個別の研修・育成計画として取りまとめ、人材の育成・職員相互の高め合いにつなげ、職員一人ひとりのやる気・働きがいのさらなる向上に活かす方向性も検討されたい。

○職員同士が共通認識を持って保育が展開できるような情報共有の方法に工夫が望まれる
開園2年目であり現在はいろいろなことを模索しながら進めている状況にある。事務連絡事項や保育内容の事柄に於いても、職員間での漏れが無いように伝達ノートを使ったり、緊急時は職員のグループラインを使用して伝えるようにしている。新任職員から他園経験の職員構成の中で、経験年数の違いから理解の度合いが違いうために、勘違いや思いこみが生じやすい状況がある。現在は保育業務マニュアルを作成中とのことである。職員間での齟齬を生じさせないためにも、内容の共通理解が必要であり、そのためには確認を丁寧に進めていく事が望まれる。職員同士が協働しながら、共通認識を持って保育が進められるよう、情報の共有と伝達の方法についての工夫を期待したい。

⑤第三者評価結果に対する事業者のコメント

今年度、はじめて第三者評価を受信し客観的な評価をしていただき、改善点が明示されたことで園として取り組む目標ができました。
職員一人一人が自分の役割を意識して、職務に励んでいければと思っています。
保護者の方からの率直なご意見をお聞かせいただけたことで日常業務を振返ることができ、改善につなげていきたいと思っています。

⑥各評価項目にかかる第三者評価結果

別紙「評価細目の第三者評価結果」のとおり